

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月28日

事業所名 シルビアンゆらら

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11			法令を遵守したスペースを確保している。
	2	職員の配置数は適切である	10			法令で必要とされる必要数を確保している。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8		2 部屋全体にマットを敷き安全に活動できる様に環境を整えている。	外に階段などの段差等があり、安全に活動できる様にスロープの設置も検討している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9		2 毎日清掃と消毒を実施。	子ども達が安全に伸び伸びと活動な環境になる様に工夫する。また、何度も触る場所などは消毒をしています。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9		業務改善を意識した話し合いが行われている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		ホームページに公開している。	保護者の意向を把握し、職員間で情報を共有する事で、今後の支援の質の向上につなげる様に努める。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5			内部の話し合いのみになっている為必要に応じて実施する。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		年単位で研修計画を立て実施している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	10		子どもや家族に聞き取り以外にも関係機関から情報収集を行っている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			法人内で標準化されたアセスメントツールの周知と使用方法の共通理解に努める。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7		具体的な支援を設定している	定期的に見直す事で、発達段階にあった計画になる様努める、
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	10		計画書を確認しながら日々の支援の振替を行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	10		チームで案を出し合い、その時期ならではの行事を行っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11		過去実施したプログラムを振り返り、固定化しない様に工夫している。	子ども達が期待感を持って取り組めるように活動プログラムを工夫する。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	10		集団活動の中でも個別に個別に必要な対応を行っている。	定期的に見直す様にする。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	1	職員間で情報を共有する時間を設けている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9		支援終了後に気が付いた事や家族からの情報を共有している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		支援活動の記録をとっている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10		基本的には受給者証更新月に計画書を見直している。また、必要に応じて計画書の見直しが必要な場合には、その都度行っている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10		管理者や看護師が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8	1	定期的に情報共有している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	10		本人の状況を把握の為に、関係機関と連携を図っている。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	10		主治医からの指示に基づき医療的ケアを行っている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11		保育所等の入園前後に情報共有を行っている。また送迎時に情報交換をしている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		学校入学前後の関係機関で情報共有を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	4	担当者会議を通じて情報交換を行っている。	専門機関が開催する研修に参加している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	7	2		地域の施設を利用する事で交流ができるように、コロナウィルスの感染拡大が落ち着いたいたら計画予定。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	6		定期的に参加していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9		家族と事業所間の連絡帳の活動やLINEで活動写真を送信する等して分かりやすくしている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	2	家族での対応方法のアドバイスや相談に応じている。	研修等を活用し専門性を高めていきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	1	契約時に重要事項説明と利用契約書に記載されている項目に添って説明している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9		計画書作成後は家族へ説明して同意を得ている。基本的には年に1回見直している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	1	日々の相談や、担当者会議等で相談に応じている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	6		コロナウィルスの影響で今年度は保護者同士の交流機会を開催できず、状況に応じて計画していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	11		相談があった場合には、管理者に報告し対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11		不定期で活動の様子を通信として発行している。また、LINEを通して日々の活動の様子を発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	10		職員間で周知徹底している	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	1	特性を把握したうえで話し方の配慮や思いを汲み取る努力をしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	5		コロナウィルスの影響で現在は控えている今後や状況を見ながら、地域の施設利用や積極的な関わりを心がけるように努める。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	11		マニュアルを作成し個別に対応している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10	1	定期的に訓練の実施を計画している。	職員と児童全員が参加できる様に配慮する。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	10	1	保護者より聞き取りを行い状況把握に努めている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	11		アレルギーの状況や治療の確認を行っている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11		記録に残し、職員で情報共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	1	社内研修を行い、共通理解をするよう努めている。	虐待防止について、社内外で研修する機会をもてる様に努める。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	1	社内研修を実施し、共通認識。理解をするようにしている。	虐待防止法を理解し、身体拘束を行う時の留意事項等周知徹底していくようにする。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。